

牧草がもたらすもの

雪印種苗 専務 五十嵐 清



酪農を営む上において牧草は単に飼料生産上大切な作物ではなく、土地生産力の培養農業労働力の調整など農業經營の中心をなすものであつて、歐米諸國のような有畜農業形態においてはいずれの農家も一番大事な作物として、土地の選定、土壤の管理、耕種肥培、収穫調製などに特別な工夫研究考慮を払うものとなつてゐる。

たとえば永年牧草地を作るとなれば、サブソイルブラウを附け足して地下一尺四、五寸までもブラウを通し、有機質肥料も石灰も大量に施し、ハローーも想定にかけて砕土して、それぞれ優れた特性をもついた科牧草種を十種類も混合して反当七〇一〇ボンドくらいを播種する。一度播種すれば数年間は連續収穫を続けるのだから十分な考慮を払う訳である。乾草をつくる場合など気合いで三日間の天候を良く聴き合せて、徹夜で刈取るくらいのことは通例となつてゐる。乾草は青々とした香り高いものを自慢し畜舎の階上に収納して、はじめてホット安息しその年の乾草の質と量を測つてから、これで今年の乳量も目算がついたと満悦の微笑を交はしお互に慰め合うことになつてゐる。これは恰も日本の農家が苗代準備から米を俵に納めるまでの辛苦を払つて収穫祝をするのと同様である。

家畜にとつて牧草は米の飯である。すし米のごとく光る米のめしは味噌汁と沢庵だけでも美味しいように、スクスクと伸びる若草、香高い乾草はこよない家畜の好物であり滋養品である。先日デンマークに派遣された農村青年からの便りで「融雪早々デンマークの農村を通り、昨秋牧草を鋤起した畑地に足を踏み入れたららふかしての饅頭のような弾力を感じた。耕土は黒々とした團粒組織で彼方方に陽炎が立ち昇つて地中でケラの通つた脚跡、小鳥の降り立つた爪の形が明かに残つてゐるので故國の温床の熟練土を思い浮べた」と報じてきただが牧草はこれ程までに土地を肥やし、老いた地力を若がへさせるものである。

近年府県の各地で農道畔堤防などの牧草改良が着々進められて改良地は従来の草量の三倍になつた、五倍にまで進んだと聽いてゐるが、この草が乳となり肉となつて国民の食糧、体位向上に貴重な役目を果すばかりでなく増産された草量の半分位は堆肥となり糞尿に姿を代えて田畠に送られるのを考えると牧野改良がすなわち国土生産力の増大であることを痛感する。

(一) また最近府県の熱心な酪農家が牧草栽培に成功した多くの実例のうちからその牧草の飼料価値をデンマーク飼料単位に基づき大麦の穀実で測れば次のようになる。ナタネの改良種〇〇〇を九月末に蒔き四月中旬刈取つて反当一、二〇〇貫を収穫した埼玉の

(二) A 氏は大麦七俵四分を収穫したに等しく、イタリアンライグラスを十月二十日に播き、四月十五日一、〇〇〇貫の刈取をした千葉の C 氏は大麦一二俵五分に値し

(三) イタリアンライグラスとクリムソンクロパーを十月十五日に混播し五月五日一、七〇〇貫刈取つた静岡の D 氏は大麦一七俵余を得たに等しく

(四) ルーサンを栽培して年五回刈取り反収三、〇〇〇貫を刈取つた岡山の F 氏は大麦三〇俵を収めたに等しい。

かうなると牧草は草だといつて軽んずることはできない。牧草を愛し、牧草の繁茂を助け、牧草の特性を十分に發揮させて祖国の繁栄に貢献してもらいたいと思う。

— 2 —

